



第13回

発行日：平成27年4月1日

発行者：「じねんじょ」を育む会

会長 池内京子

下関市生野町2丁目28-20
社会福祉法人じねんじょ内

「きちんと生きる」

「じねんじょを育む会」会長 池内京子

私事ですが、1月に実母を亡くしました。その際には、金原先生をはじめ・かねはら小児科・じねんじょ保護者会・育む会の皆様よりお香典や供花・弔電を賜り、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

90歳を過ぎてから母に同居の不安が増え、週半分は実家に泊まっていたが、持病もなく家事一切をこなし、時折サポートしながらも年なりに自立していましたので、ま



さに青天の霹靂でした。大みそかは夫の打った年越しそばを食べ、新年は家族そろって初詣をして、その後たった一日下関に戻った夜、何かがあったようです。寒い部屋に一晩横たわり、暖房は定時に消えていました。火災防止機能付きの最新式暖房器が逆効果でした。救急隊に発見された時に意識はありましたが、低体温による多臓器不全で、苦しむ間もなく別れの言葉もなく、あっという間に逝ってしまいました。あれだけ通っていたのに、どうして体調の異変に気付かなかっただろう？ どうしてあの時傍にいなかったのだろう？ と、今も悔やまれてなりません。

遠い昔、訪問学級担任時代、毎年のように生徒を亡くした時のお母さんたちを思い出します。日々、懸命に我が子を見ていたのに、ある日予告もなく万に一つが起こった。その時に限ってちょっと離れていた。「どうして？」「どうして？」と責め続けるお母さんたちに、私は「そんなに自分を責めないで。お母さんに護られて〇〇ちゃんは幸せだったんだから」と何度も言ってきました。今回、私もいろんな人から同じ言葉をかけられ

ましたが、それでも納得できず、心は行きつ戻りつしています。

2歳で父と別れた私には「親を失う」実体験は初めてです。夜になると「こんないい年になって、なんで？」と自分でも呆れるほど、母が恋しくて苦しくて、悔いながら詫びながら朝を迎えます。母親という存在はそんなにも特別なものなのでしょう。幼くして亡くなったしょうがいのある子も、94歳で他界した私の母も、年齢には関係なく「母子の繋がり」は絶対的なもののように思えてなりません。

しょうがいのある子はそれゆえに、家族に護られ大切にされて生きてきました。訪問学級生の最期に立ち合う度に、「この子は死んだのではない、与えられた自分の命を精いっぱい生ききったのだ」と思いましたが、母もそうだったと信じたいです。誰にも終焉がある。その時がいつなのか誰にもわからないけれども、その時に向かって「きちんと生きる」ことにこそ意味があるのだと思いたいです。

蛇足ですが、母も「じねんじょを育む会」の会員でした。娘が会長だからというだけでなく、住んでいる長門の「金子みすゞ顕彰会」に参加したり、「ストップ・ザ・薬物乱用」のチラシ配りの街頭に立つなど、また、夫が育む会をしている「王司山田園」や甥の「ラ・ベルヴィ」(山口市)にも関心を示し、積極的でした。「八起きの家」に知人がいて、その知人の「この子がいて不幸だと思った子ことは一度もありません。この子がいるから私は幸せなんです」の言葉にとっても感動したと話してくれたこともありました。送られてくる会報には隅々まで目を通し、死後わかったのですが、会報は会ごと



に日付け順にきちんとファイルに綴じられていました。常々「会員になっても、お金を払っただけではいけんよね。いっぺんはそこに行ってどんなところか見んとね」と言い、「じねんじょにも行きたい」と話していました。山田園は私が連れて行けば一般参加できるので、昨年行きましたが、じねんじょには遂に叶いませんした。「じねんじょフェスタ」が良い機会なのですが、茶道ブースに出るので私が忙しく、母の願いを聞き流し

ていました。これも大きな悔いになっています。

「したいことは、いつするの」「今でしょ!」です。直ぐにすべきでした。私もあと何年元気でいられるかという保証はありません。それは誰も同じなのでしょう。訪問学級生との別れに感じたことを再現させられた母との別離でした。ここでも「きちんと生きる」ことを母は教えてくれました。



平成26年度 活動報告

◎「じねんじょを育む会」から下記の4つの活動に助成金を支出しています。

1. じねんじょ10周年記念祝賀会

7月6日「じねんじょ10周年記念祝賀会」が開催されました。「じねんじょ育む会」より運営資金の助成をさせていただきました。

盛会のうちに終え、社会福祉法人じねんじょの理念の実践に、職員のみなさんも決意を新たにされていきました。



[来賓挨拶] 下関市 市長 中尾友昭様

3. 第11回 じねんじょフェスティバル

10月19日に地域で活動されている方、音楽工房「陽だまり」、車いすレクダンスの「矢車草」、ピアノ演奏、絵本読みきかせなどの催し、「花笑み」や福祉事業所関係などのバザー、みんなで参加、みんなで創るフェスタになったようでした。毎年楽しみに来てくれる子どもたちが増え、地域に根付いた「じねんじょ」になっているようです。



[車いすダンス風景]

2. 馬関まつり

夏期の恒例行事になりました“馬関まつり”ですが、市庁舎工事等によりバザーの場所が変わりました。しかし、今年も多くの方々の参加があり、なかには「じねんじょ」の手のマークを目印に迷いながら来られた方もおられました。「感謝、感謝!」ありがとうございます。これからも、みんなで楽しく支えていきましょう。



4. 成人を祝う会

「成人おめでとうございます」しものせき環境みらい館を会場に、メンバー・保護者と共にお祝いさせていただきました。二十歳の誓いとして「ありのままの私」がご披露されました。育む会からは、ご自身の印鑑をプレゼントさせていただきました。



○「じねんじょ育む会」会員のみなさまへ

平素より、本会の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、当会は社会福祉法人じねんじょが行う各種の事業が円滑に運営され、ひとりでも多くの障がいを持つ皆さんが安心して利用ができ、より豊かな活動ができますよう支援をさせていただきます。これからも、継続また入会のご紹介をいただきますようお願い申し上げます。年次の予算及び決算等につきましては、(福)じねんじょの理事会等の終了後に会の役員会を開催し、ご協議をいただいております。後日ご報告しますが、「じねんじょ」ホームページに「育む会」に掲載していますので閲覧下さい。(http://www.jinenjo.or.jp/hagakumu.html)